

「令和6年度公営企業予算編成過程の公開」に対する市民意見の内容及び市の考え方

「令和6年度公営企業予算編成過程の公開」に対し、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいたご意見と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、ご意見については、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、一部要約又は分割して掲載しておりますのでご了承ください。

1 募集期間

令和5年11月17日（金）から令和5年12月18日（月）

追加及び変更分

令和6年1月10日（水）から令和6年1月22日（月）

2 意見数 23件（うち追加及び変更分 4件）

3 提出方法 電子メール21件、郵送2件

4 意見の内訳

交通局

(1)新規・拡充事項（8件）

(2)その他（15件）

名古屋市交通局企画財務部財務課

1 交通局への意見に対する市の考え方について

(1) 新規・拡充事項

鶴舞線可動式ホーム柵の整備について 2件

・予定では庄内緑地公園から順番に設置されるようになっていたのですが、できれば島式ホームの駅や伏見、上前津といった乗り換えで多くの方が利用される駅から優先的に設置いただけることを要望します。また、名鉄の都合で手動運転のままホーム柵設置とのことですが、これだと停止位置修正の増加が懸念されるため、名鉄と協議のうえ一刻も早く、他線同様ATOの設置を行える環境を整えてほしいと願います。

・駅への進入速度が速い駅(大須観音や原など)を優先した方が効果が高いと考えます。

(市の考え方)

お客さまが混乱することなく、わかりやすい順番で設置する必要があり、多客駅である伏見駅や上前津駅をできる限り早い段階で設置することが望ましいため、庄内緑地公園駅から赤池駅に向けて順番に設置していきます。

自動列車運転装置(ATO)の設置につきましては、様々な形式の車両があり、車両改造をしてもATOを搭載することができない車両があるため、困難です。

地下鉄構造物の耐震補強について 1件

引き続き来ることが懸念される大地震に備え、耐震補強を進めて頂くとともに、早期地震警報システムをATCと連携させ、発災時は全ての電車が運転士の操作無しに緊急停止するようシステムが改善されることを要望します。

(市の考え方)

早期地震警報システムを受信した場合は、運転士の操作により直ちに停止させるという取扱いをしており、その対応訓練も実施し安全確保に努めています。

ご要望は、今後の参考とさせていただきます。

地下鉄車内カメラの設置について 1件

予算や車両の検査周期の都合で仕方がないかもしれませんが、非常に整備スピードが遅く感じます。もう少しテンポ感を持って整備いただき早期の設置に努めていただくことを要望します。また車両の置き換えの都合もあるかと思いますが、他線にも整備いただくことを要望します。

(市の考え方)

車内カメラについては、お客さまのご利用が多い路線である東山線車両への設置を積極的に進めており、令和10年度までに東山線全車両への設置を予定しております。

また、他路線における整備につきましては、東山線での設置の効果を踏まえつつ、検討してまいります。

地下鉄駅のリニューアルについて 1件

名城線栄駅のリニューアル工事において、栄駅3番線・4番線の北端にある「第二栄町変電所」のプレートを残し、地下鉄駅の歴史的な遺構を大事にしていきたい。

(市の考え方)

地下鉄駅のリニューアルは、お客さまに明るく清潔感のある快適・便利な駅空間を提供するため、開業後50年以上を経過した駅について、駅全体の壁・床・天井・照明等をリニューアルする計画としています。

歴史的な遺構を残すというご意見については、今後の参考とさせていただきます。

照明のLED化について 1件

地下鉄駅構内だけでなく、車内照明のLED化を進める必要が有ると思います。また更新時、N3000に付いている様な直管タイプは明る過ぎて目が痛いので、カバー付きLED照明が良いです。平成元年に導入した車両が多く、車両更新も進めて欲しいです。モーター等更新をしても、車内はそのまま薄暗く時代遅れな感じがします。40年使用を目指すのでしたら、中間の20年で機器更新時、車内のリニューアルが必要です。全体的にくたびれている感じがします。

(市の考え方)

地下鉄の車内照明は、環境負荷を低減させるため、省エネ効果の高いLEDへ改修しております。なお、カバー付きLED照明については、眩しさを抑える利点はありますが、導入費用が高いという課題があります。

また、お客さまにより快適にご利用いただける地下鉄にするため、車両更新を計画的に進めてまいります。

クレジットカード対応券売機の設置拡大について 1件

名駅、金山に対応券売機を増備するということですが、他の駅についても設置をして頂きたいです。特に名鉄との境界駅やその他他社線との接続駅には早急の設置を要望します。

(市の考え方)

令和6年度は、名古屋駅と栄駅で増設を予定しております。他の駅については、現在策定中の名古屋市営交通事業経営計画2028において、設置駅を拡大することとしております。具体的な設置駅については、今後検討してまいります。

戦略的な利用促進策の展開について 1件

「戦略的な利用促進策の展開」の一環で、敬老パス提示での「アクティブシニアキャンペーン」が行われたが、そこに福祉特別乗車券でも同じように、福祉特別乗車券提示で各種割引や特典・優待などを受けられるキャンペーンを実施し、障害者の社会参加とその機会を交通・移動の面から促進していきたい。

映画館ではほぼすべての施設で障害者手帳提示による障害者割引料金があるものの、市内の商

業施設などで展開される各種催事には、障害者割引や優待がないものも少なくなく、入場料の高い催事には経済的な面から行くのを断念したりするものも多々あるものと思われる。障害者にも、高齢者だけにとどまらず各種催事などに興味関心のある人もいる。また、障害があることで社会参加の機会を損失してしまうこともまだまだ多々ある。そういう点からも、名古屋市交通局が市営交通を通じた障害者の移動を支え、催事や社会行事などに参加するきっかけと動機付けに、福祉特別乗車券を活用した「戦略的な利用促進策の展開」を行っていただきたい。

(市の考え方)

交通局では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大きく減少した乗車人員の回復を図るため、市バス・地下鉄の利用状況等を分析し、回復の鈍い層や新たな需要の掘り起こしになると考えられる層をターゲット層として、戦略的に利用促進策を実施していく予定です。

頂いたご意見は、今後の展開を検討する際の参考とさせていただきます。

(2) その他

ダイヤ改正について 1件

東山線において、混雑時においても扉付近に乗客が立ち止まって固まり、中に詰めてくれないことに苛立っている。これでは、車内に進むことができない。もっと、扉付近に立ち止まらずに車内に詰めてもらえるよう、啓発をしていただきたい。また、東山線では平日日中が6分間隔となり、平日日中の東山線中心部ではラッシュ時以上に混雑が激しい。せめて休日と同じ5分間隔に戻して混雑緩和を図ることはできないだろうか。これも、扉付近への立ち止まりへの改善につながると思われる。

(市の考え方)

地下鉄の扉付近を広く空けることについては、車内マナー啓発の一つとして、引き続きポスターや放送等により、お客さまへ呼びかけていきます。

また、ダイヤ改正については、お客さまの利用動向に関する最新のデータや社会経済情勢などを注視してまいります。

ホームの時刻表について 1件

2023年9月の桜通線減便ダイヤ改正において、桜通線の駅ホームの時刻表掲示が廃止され、スマホでのQRコード読み取りとなった。これに関しては、新聞の読者投書や数多くのSNS投稿において極めて不評であり、元の時刻表掲示を復活させてほしいという声を何度も見ている。桜通線の行先やダイヤは単純だが、平日や土日祝日にかかわらず、早朝・深夜、また10分間隔の日中においても、駅ホームの時刻表掲示にはパッと見ただけでダイヤが分かる安心感がある。駅ホームの天井からぶら下げられているLED案内表示器は、各ホームの番線において2、3個しか設置されておらず駅の構造物、主に柱や階段などで見えないところが多々あり、「役に立たない」ことが少なくない。こういう死角になっているところに時刻表掲示があることも、安心感につながる。是非とも復活させていただきたい。今後、鶴舞線でも減便ダイヤ改正が行われると聞いたことがあるが、名鉄との直通

運転があり、行先や列車種別が複雑な鶴舞線においては、駅ホームの時刻表掲示廃止は極めて不親切・不便になるだろうと思われる。是非とも駅ホームの時刻表掲示を継続していただきたい。

(市の考え方)

令和5年9月に実施した桜通線のダイヤ改正に合わせ、桜通線の駅ホームの時刻表掲出を取りやめました。改札口付近の時刻表はこれまでどおり掲出しております。次の列車やその次の列車の時刻は、各ホーム及び改札口に設置している旅客案内表示装置でご案内しております。各ホームに設置している旅客案内表示装置につきましては、場所によっては柱などの構造物に遮られてしまう場合がありますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

また、令和6年3月の鶴舞線でのダイヤ改正につきましても、鶴舞線の駅ホームの時刻表掲出を取りやめていきます。名鉄線との直通運転により行先の異なる列車がありますが、地下鉄は各駅停車での運行を行っておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

LED行先表示装置について 2件

・2023年度購入市バス車両から、LED行先表示がオレンジ色から白色に変わったが、相変わらず後部行先表示には、系統名の表記がなされていないことに、不便を感じることもある。一部の系統においては経由地の表記の更新が加えられたものもあるが、後部にも系統を表記していただきたい。

・市バスの方向幕がLED化されてから、後部表示は系統記号の併記がなくなり、具体的な経路が分かりにくいことが多くなった。系統記号の併記復活が理想だが、それが困難ならば路線系統ごとの固有の経由地を1ないし2箇所は併記できないか。特に字数の少ない栄、金山、名古屋駅行きの場合は左側に余白も十分あるはずだが。なお、文字の白色化は昼間でも見やすくなり助かっています。

(市の考え方)

後部への系統記号併記については、前部に比べ後部の表示スペースは範囲が狭いので、行先の名称の長い系統や、経由地を併記した系統などの場合、文字が小さくなるなど読みづらくなる課題があると考えますが、市バス利用者の利便性向上のため、表示方法などを検討してまいります。

アイドリング・ストップバスについて 1件

市バス車両において、アイドリングストップで燃費改善など、大して成果を上げていない場合は、頑なにアイドリングストップ機能搭載にこだわる必要はなく、アイドリングストップ機能なしの車両を購入してもよいものと思われる。その方が、市バス車両の購入価格を少しは下げられるのではないだろうか。

(市の考え方)

アイドリングストップ機能については、メーカーが公表しているデータを基に、燃費改善及び燃料消費量削減の観点で、環境面への負荷は低減できるものと考えており、今後も引き続き最新の燃費基準及び排出ガス規制に適合し、アイドリングストップ機能が付いた車両を購入する予定です。

非化石エネルギー自動車について 3件

・電気バスの導入に向けて検討を進め、試験導入・実証実験を始めてみるべきではなかろうか。また、ハイブリッド技術や装置の小型化も著しく進歩したが、環境負荷の軽減を図るには、電気バスのみならずハイブリッドバスも導入するべきではなかろうか。既に国内の多くの事業者でハイブリッドバスの導入事例も報告されており、好評を博している。

・今回公開された予算案では、市バス事業の今後の環境対策についての新規事項が盛り込まれておらず、非常に残念である。7年度に電気バス導入計画はあるものの、充填時間や航続距離、バッテリー劣化の可能性を考慮に入れると、FC バスマインが理想。数年後の次世代型燃料電池バスの市販予定、および市バス車両の大量更新時期を踏まえて、6年度予算にも計上すべきです。環境局主体で試行導入事業は進められているが、それらの課題を整理するだけでなく、解決策を考え、交通局主体での本格導入に舵を切るべきです。

・今年4月から水素で走る燃料電池バスの試行導入が始まっているが、運用してみて具体的な課題は上がってきたのか。課題に応じて導入可否を決めるのではなく、課題を解決し導入拡大する方向で動いていただきたい。今回公開された予算案では燃料電池バス追加導入に向けた動きがないのが非常に残念。コスト面や水素供給の課題はあるものの、性能的には客からも運転士からも総じて好評なようである。グリーン水素の名古屋での供給網構築など、県や他局とも連携の上、ぜひ次回公開の際には、具体的な予算が盛り込まれていることを期待しております。

(市の考え方)

「非化石エネルギー自動車」については、令和5年4月1日に施行された改正省エネ法により車両の要件が定義されましたが、現在販売されているハイブリッドバスは「非化石エネルギー自動車」に該当しないため、現時点では導入の予定はありません。

燃料電池バスやEVバスといった「非化石エネルギー自動車」の導入については、様々な課題があるため、コスト面、運用面の両面から検証を行い、今後の導入について検討していく予定です。

イベントの開催について 2件

・来年度は、名城線環状化20周年記念の年度である。2014年秋に名港工場で名城線環状化10周年記念イベントが開催された。来年度はこれに倣い名城線環状化20周年イベントを実施するのだろうか。そもそも、「令和6年度公営企業予算編成過程の公開」には、イベント関連の予算が一切計上されていない。

・全国の鉄道・バス事業者では、近年人気アニメや漫画とのコラボキャンペーンを実施し、撮影スポット設置・コラボラッピング列車やバスの運行・スタンプラリーなどの体験型イベントの開催・コラボグッズの販売などが盛況であり、アニメや漫画作品との相乗効果として利用促進や地域貢献にもつなげようとしている奮闘が随所に見られる。名古屋市交通局もアニメや漫画とのコラボイベント・キャンペーンを、単発限りではなく切れ目なく参加できるように実施して欲しいものである。

(市の考え方)

交通局では、周年などの機会を捉えて、イベントの開催など市営交通への理解と愛着を深めていただくことを目的とした企画を実施しています。また、キャラクターの魅力を活用した利用促進策につ

きましては、これまでも機会を捉えて取り組んでおり、令和5年度には、人気アニメゲームとコラボした企画乗車券を発売しました。

令和6年度には、名城線環状化20周年を記念したスタンプラリーや体験型謎解きイベントなどの実施を予定しております。

資産の有効活用について 2件

・本郷駅バスターミナルの店舗ビル建設計画は打ち切りになったのか。今後建設し入居事業者を再度募集するのだろうか。是非とも進捗状況や今後の計画を公表していただきたい。

・地下鉄駅構内の空いているスペースに、例えば東山線の100型をイメージした形のコンビニや飲食店など交通局らしい外観をしたテナントを誘致し、子どもや交通局に興味を持っていない方々に好きになってもらうことを行ってほしいです。

(市の考え方)

本郷バスターミナルについては、店舗の整備工事に先立ち、令和3、4年度に店舗事業者を複数回公募しましたが、いずれも応募がなかったため、店舗整備を一旦、見合わせることにしました。今後は、バスターミナルの有効活用を図るため、様々な事業者から情報収集を行い、引き続き土地の活用方法について検討してまいります。

地下鉄駅構内の空きスペースについては、より多くのお客さまに喜んでいただける活用方法を引き続き検討してまいります。

基幹2系統のバスレーンについて 1件

基幹2号系統のバスレーンの全時間帯完全専用レーン化を実施していただきたい。基幹2号系統バスレーンは、専用レーンとなる平日朝夕ラッシュ時を除き、平日日中と土日祝は「優先レーン」であり、基幹バス車両以外の一般車が次々と平気にバスレーンに進入している。愛知県警や道路管理者などと連携して是非とも全時間帯専用レーン化と一般車進入の完全排除を実施していただきたい。

(市の考え方)

専用バスレーンは朝夕のラッシュ時間帯におけるバス運行の定時性、速達性に効果がありますので、交通局としては専用バスレーンの維持について公安委員会に働きかけていますが、専用バスレーンの全時間帯化は他に例もないことから難しいと思われます。交通局では朝の規制時間帯のバスレーン監視活動や違法進入車両の警察への報告など、現在設置してある専用バスレーンの維持に努めてまいります。

バス車内放送について 1件

市バス前扉から乗車する際、「〇〇行です」と放送が流れるが、ボリュームが小さく聞き取れないことが多い、市外の方にも利用しやすいよう音量を大きくしていただきたい。また、車内にて「次は〇〇です」の放送も音量が小さく聞き取りにくいように思う。費用もかからない事と思うので運転手が乗車前に音量チェックしてもらえるとよいと感じます。JR や名鉄の乗り換え案内も行っていただけると質の高い市バスをより実感しますが。

(市の考え方)

行先案内や車内アナウンスにつきましては、引き続き適切な音量で聞き取りやすい案内放送を行うよう、運転士の指導に努めてまいります。また、JRや名鉄との乗り換え案内につきましては、バス停間の運行時間や放送時間など案内可能な範囲を考慮し、実施可能かどうかを検討してまいります。

バス車両の更新について 1件

令和6年度の新車で、左側最前列(通称オタ席)をつけてもらえませんか。令和4年度と令和5年度の新車で左側最前列(通称オタ席)がなかったため、令和6年度こそは左側最前列(通称オタ席)に座席をつけてもらうことができたら幸いです。

(市の考え方)

令和4年度及び令和5年度に導入したバス車両は、運転席左側方の視認性を向上させ、左折事故等を防止する安全性向上の観点から、左側最前列の一人席が無い車両としています。

このことから、令和6年度も引き続き、左側最前列の座席は設置しない予定です。

※ご意見については、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、一部要約又は分割して掲載しております。